

関西 DX 推進プラットフォーム事業キックオフセミナー

e-Kansaiレポートから見る DX推進の現状及び提言

2021年7月12日

一般財団法人関西情報センター
イノベーション創出支援グループ
研究員 梶谷 良徳

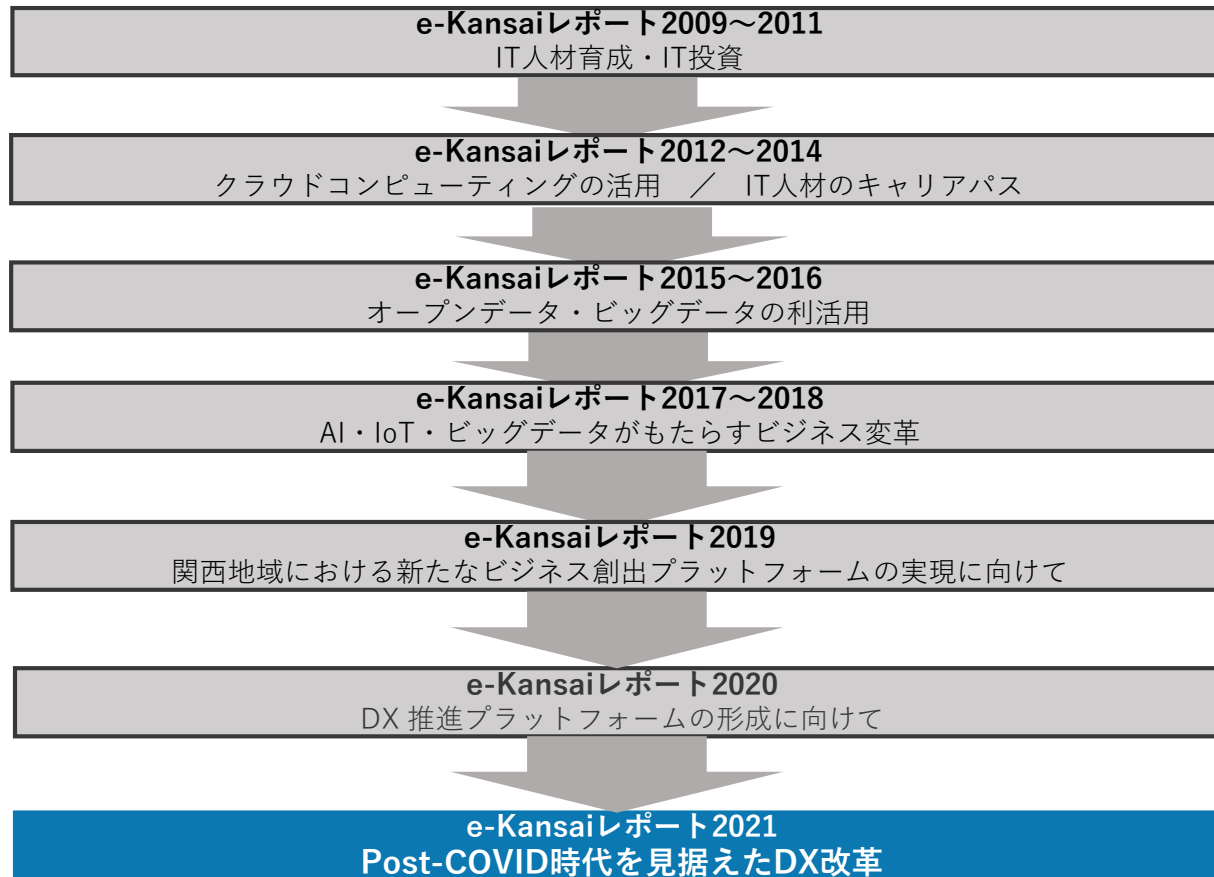
【関西 DX 推進プラットフォーム事業キックオフセミナー】
e-Kansaiレポートから見るDX推進の現状及び提言

1. 「e-Kansaiレポート」について
2. デジタルトランスフォーメーション（DX）推進の現状
3. 調査結果からの考察
4. 提言：DX推進プラットフォーム形成の必要性

1. 「e-Kansaiレポート」について

e-Kansaiレポート事業

- ・ 関西地域における情報化の動向を多角的に捉え分析することで、関西の情報化の現状や課題を明らかにするとともに、その解決策を提案することを目的に実施。
- ・ その時代に則したタイムリーな話題（AI・IoT・ビッグデータ利活用、DX等）を設定し調査推進。



e-Kansaiレポート2021

1. 「e-Kansaiレポート」について

e-Kansaiレポート2021 ～Post-COVID時代を見据えたDX改革～

関西圏を中心とする企業を対象に、企業におけるDX推進及びデータ利活用の実態調査を実施。DX・イノベーション創出を絶えず実現する組織・システム・人材育成等をいかにして実現するか明らかにするとともに、それらを推進するに当たって、プラットフォームに求められる具体的な機能や実現に向けた施策等について言及。

構成

第1部 2020年度調査報告

1. はじめに
 - 1.1 調査方針
 - 1.2 調査手法
 - 1.3 本報告書の構成
2. DX推進の現状と課題
 - 2.1 文献調査
 - 2.2 アンケート調査
 - 2.3 ヒアリング調査

3. DXの推進に向けて
 - 3.1 調査結果のまとめと課題整理
 - 3.2 提言：
DXの更なる推進に向けて
- あとがき

第2部 先進企業インタビュー記録

付録 アンケート数表・調査票



↓ [報告書掲載ページ](#)



デジタルトランスフォーメーション (DX) とは？

- ・「ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」
(Erik Stolterman 2004)
- ・DXをビジネスの側面から捉え直した時、単なるIT化（デジタル化）ではなく、競争優位の獲得や新ビジネス創出の観点から **ビジネスモデル・組織の見直し等**を考慮する必要性
- ・昨今ではDXに対して新たな定義・解釈が存在。
本調査におけるDXの定義は下記の通り。

DX：企業を取り巻く市場環境の変化に対応し、ビジネス上の競争力を強化・維持するため、ITを活用して製品やサービス・ビジネスモデルの変革や、業務プロセス・企業文化など組織の見直し、新ビジネス創出を行っていくこと。

IT活用



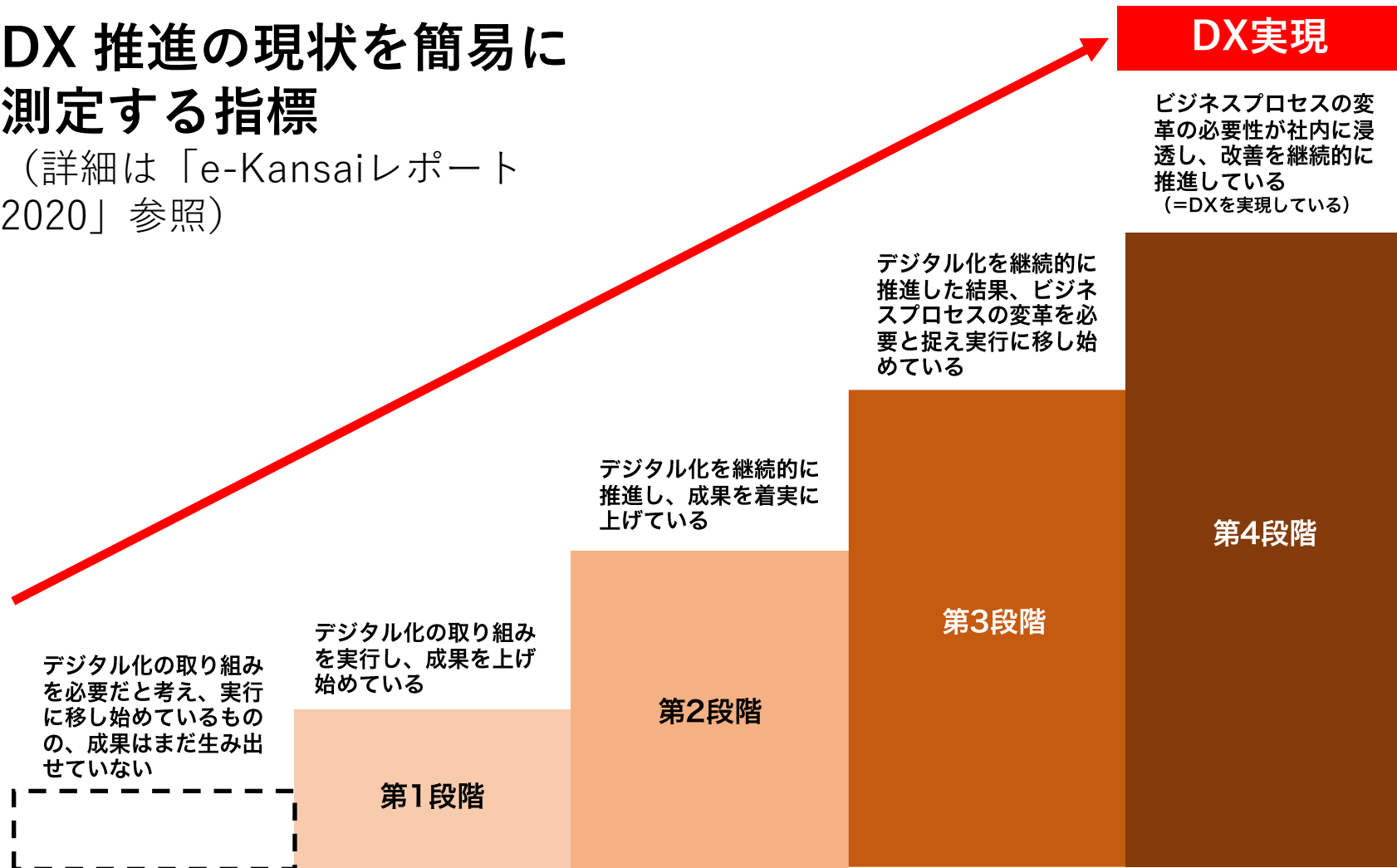
ビジネスモデル・
組織等変革



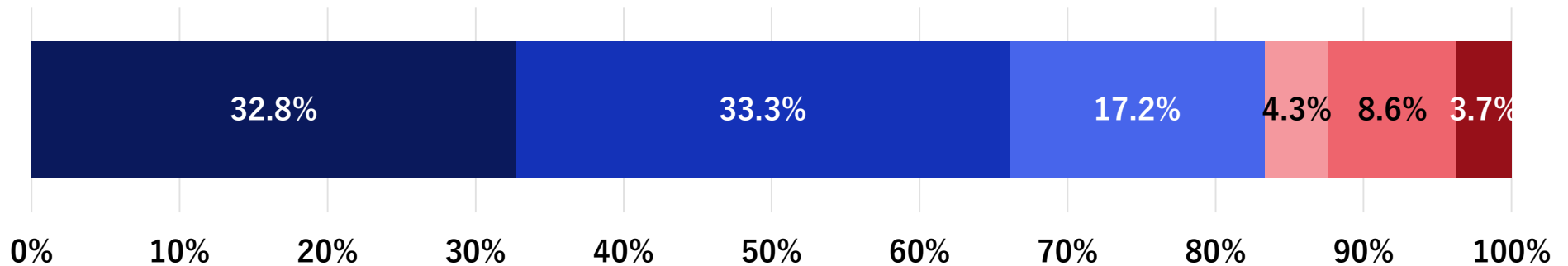
新ビジネス創出
(DX実現)

DX 推進の現状を簡易に 測定する指標

(詳細は「e-Kansaiレポート
2020」参照)



2. DX推進の現状 DX推進状況 (n=348)



■ 当てはまるものはない、わからない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと (IT・データ利活用など) デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めているものの、成果はまだ生み出せていない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと (IT・データ利活用など) デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めるとともに、成果を生み出しつつある

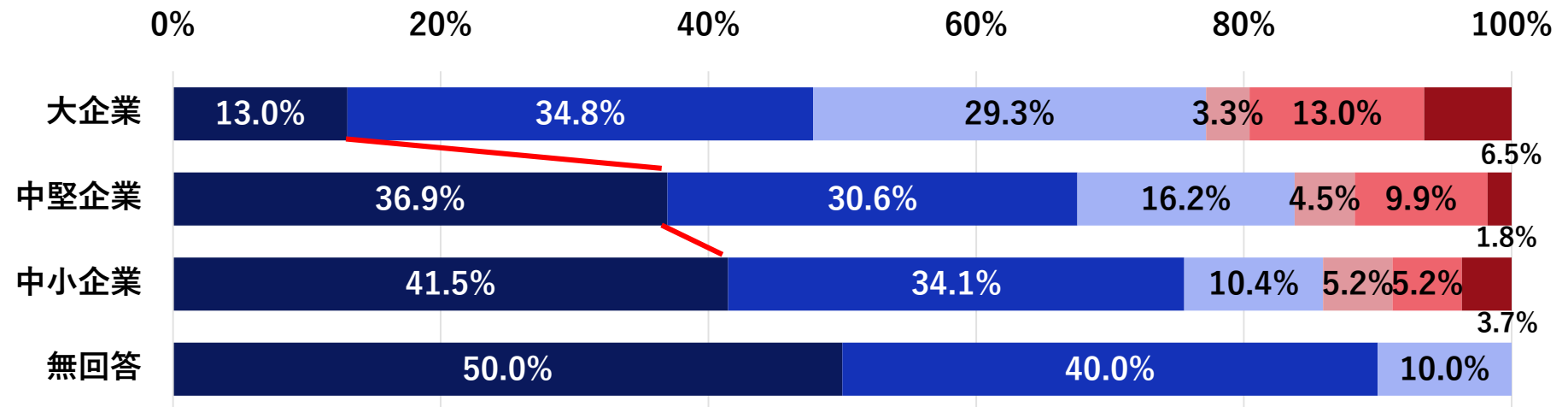
■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化の取り組みを継続的に推進し、成果を着実に上げている

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化を継続的に推進した結果、DXを意識して、業務プロセスや組織文化など、ビジネスプロセス全般の変革の必要性を認識し、実行に移し始めている

■ ビジネスプロセス全般の変革の必要性がトップ層だけでなく現場にも浸透し、改善を継続的に推進している (→DXを実現している)

**DXを未実施、もしくはデジタル化に取り組み始めるも成果がまだ出ていない
状況の企業割合が高い**

2. DX推進の現状 DX推進状況【企業規模別】 (n=348)



■ 当てはまるものはない、わからない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと (IT・データ利活用など) デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めているものの、成果はまだ生み出せていない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと (IT・データ利活用など) デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めるとともに、成果を生み出しつつある

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化の取り組みを継続的に推進し、成果を着実に上げている

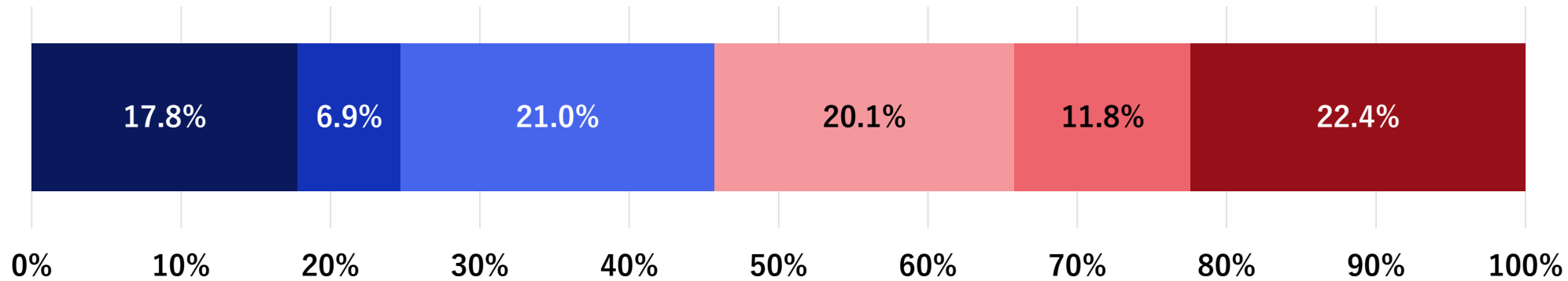
■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化を継続的に推進した結果、DXを意識して、業務プロセスや組織文化など、ビジネスプロセス全般の変革の必要性を認識し、実行に移り始めている

■ ビジネスプロセス全般の変革の必要性がトップ層だけでなく現場にも浸透し、改善を継続的に推進している (→DXを実現している)

企業規模によってDX推進状況に差異が生じている

2. DX推進の現状

2025年の時点で到達したいと考えるDX推進状況（n=348）



■ 当てはまるものはない、わからない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと（IT・データ利活用など）デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めているものの、成果はまだ生み出せていない

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと（IT・データ利活用など）デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めるとともに、成果を生み出しつつある

■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化の取り組みを継続的に推進し、成果を着実に上げている

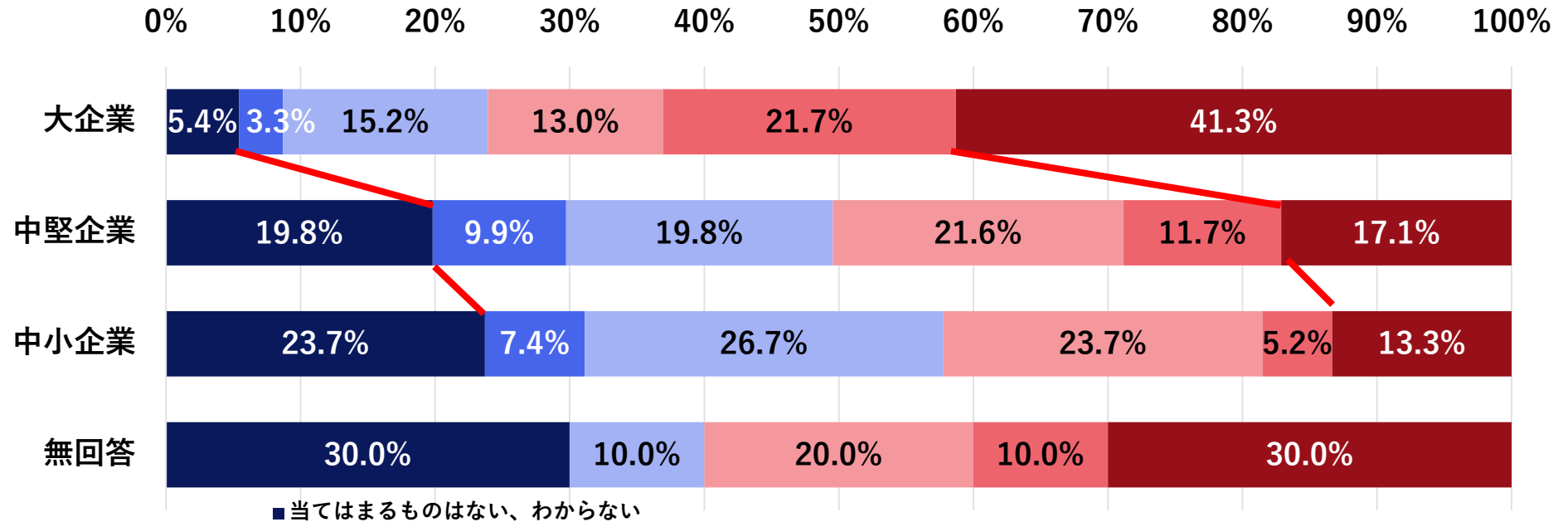
■ トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化を継続的に推進した結果、DXを意識して、業務プロセスや組織文化など、ビジネスプロセス全般の変革の必要性を認識し、実行に移し始めている

■ ビジネスプロセス全般の変革の必要性がトップ層だけでなく現場にも浸透し、改善を継続的に推進している（→DXを実現している）

2025年時点でも「DX実現」を目指す企業割合は2割に過ぎない

2. DX推進の現状

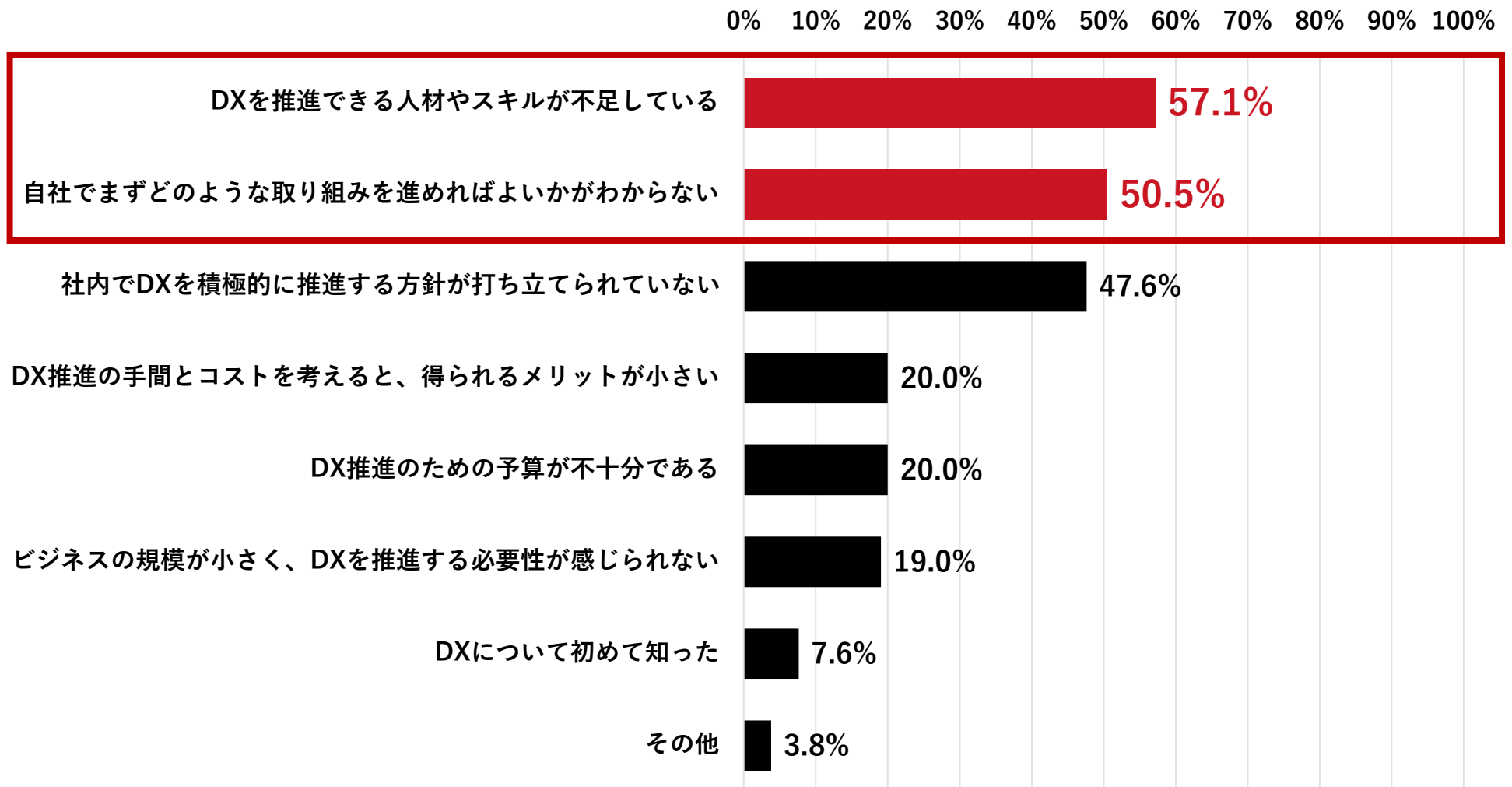
2025年の時点で到達したいと考えるDX推進状況【企業規模別】 (n=348)



- トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと（IT・データ利活用など）デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めているものの、成果はまだ生み出せていない
- トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもと（IT・データ利活用など）デジタル化の取り組みを必要だと考え、実行に移り始めるとともに、成果を生み出しつつある
- トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化の取り組みを継続的に推進し、成果を着実に上げている
- トップ層の明確な課題意識とリーダーシップのもとデジタル化を継続的に推進した結果、DXを意識して、業務プロセスや組織文化など、ビジネスプロセス全般の変革の必要性を認識し、実行に移し始めている
- ビジネスプロセス全般の変革の必要性がトップ層だけでなく現場にも浸透し、改善を継続的に推進している（→DXを実現している）

企業規模により取り組み意識の差異が見られる

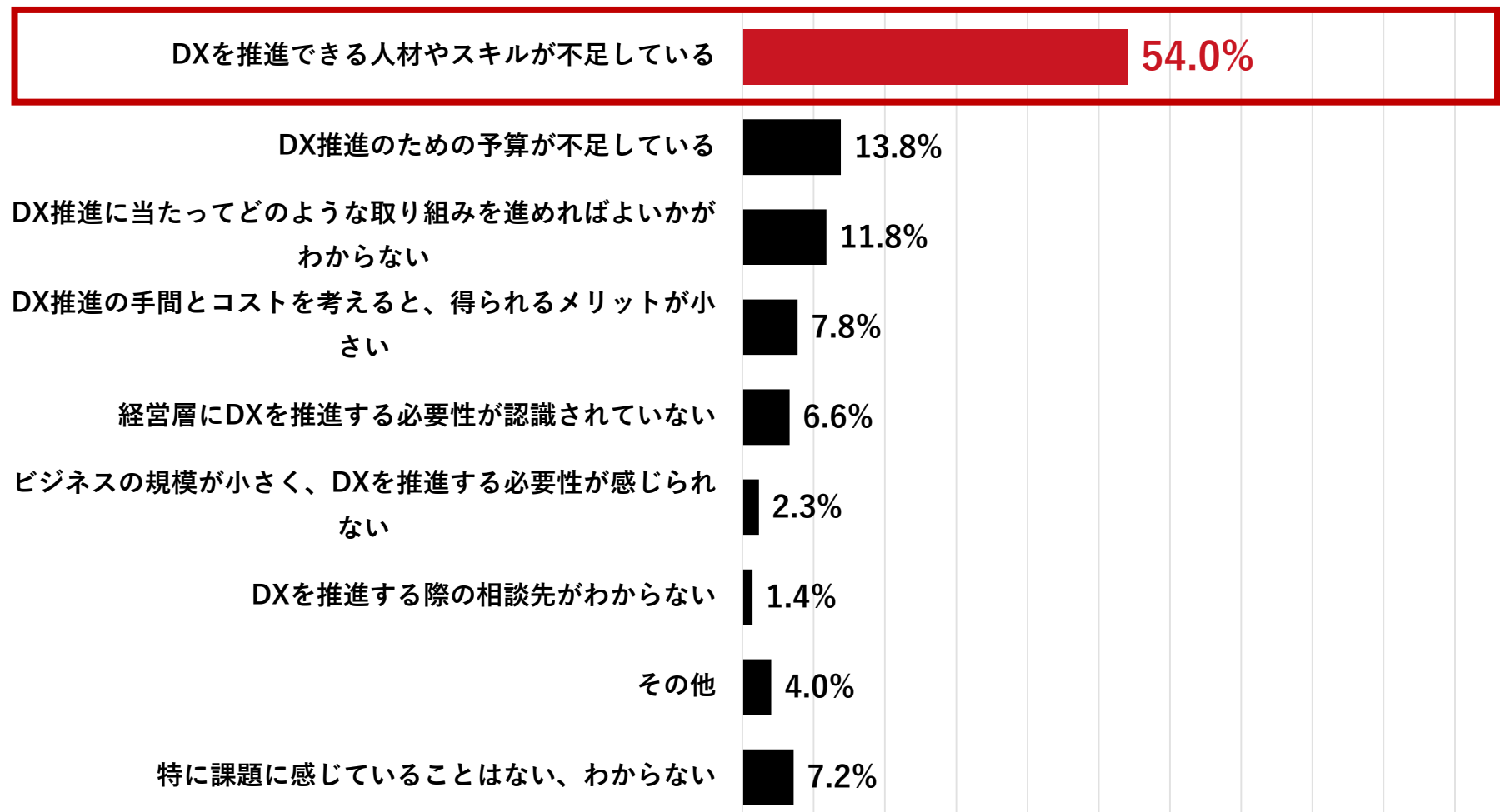
2. DX推進の現状 DXの未実施理由 (n=348)



未実施理由として、DX推進人材・スキルの不足、
DXの進め方が分からない企業割合が高い

2. DX推進の現状 DX推進上の課題 (n=348)

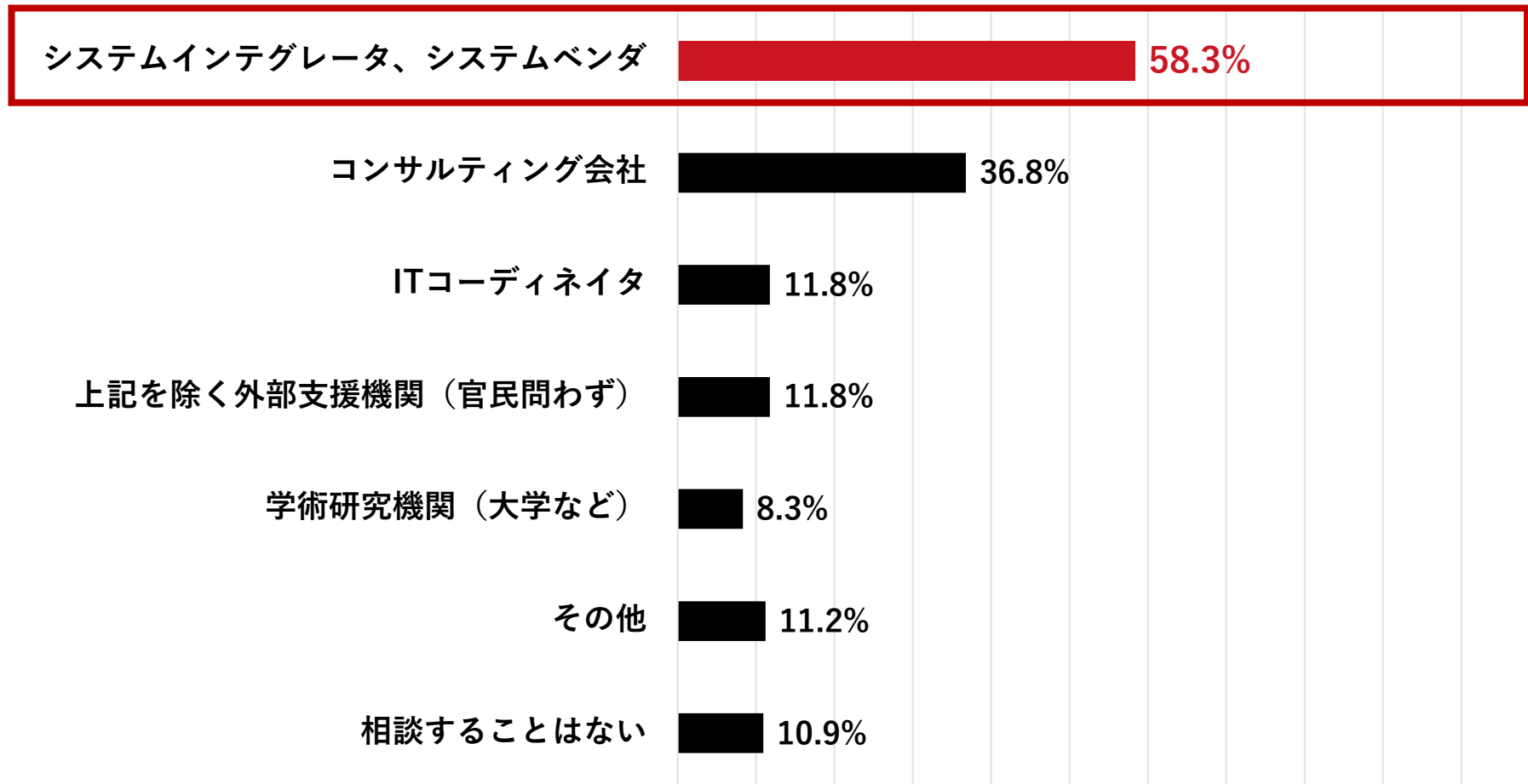
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



推進上の課題として、DX推進人材・スキルの不足が最も高い割合を占める

2. DX推進の現状 DX推進時の相談先（n=348）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



相談先として、Sler/ベンダを挙げる割合が最も高い

- ・ DX：ビジネスプロセスの変革を通して、新ビジネス創出に繋げる
→ 既存業務の単なるデジタル化ではなく、組織全体の変革を推進



既存業務をそのまま
デジタル化（ITありき）



組織全体の変革
（ビジネスモデル、組織文化等）

ビジネストランスフォーメーション
（BizX）

- ・ DXをオペレーションの効率化・コストダウン（オペレーションの改善）、新しい便益の創出（イノベーションの推進）の2つの領域に分けて捉え、DXのグランドデザイン（目指すべき姿）の策定を推進。

オペレーションの改善

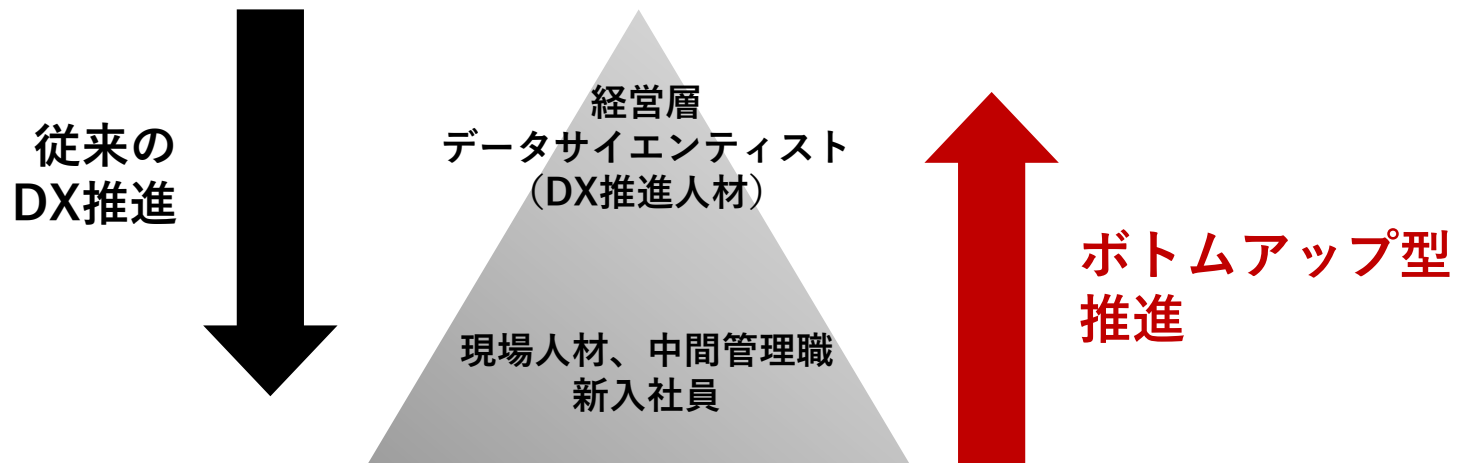


DXの目指すべき姿
（グランドデザイン）

イノベーションの推進

- DX：業務プロセス全体の見直し
→ **全社的な取り組み**として推進
- 全社員への急速な変化 → **段階的な浸透**

- 現場の課題に応じた形でのDX推進
→ 「DX推進人材」の取り組みだけでなく、
現場が自ら動く、ボトムアップ型での取り組みも重要

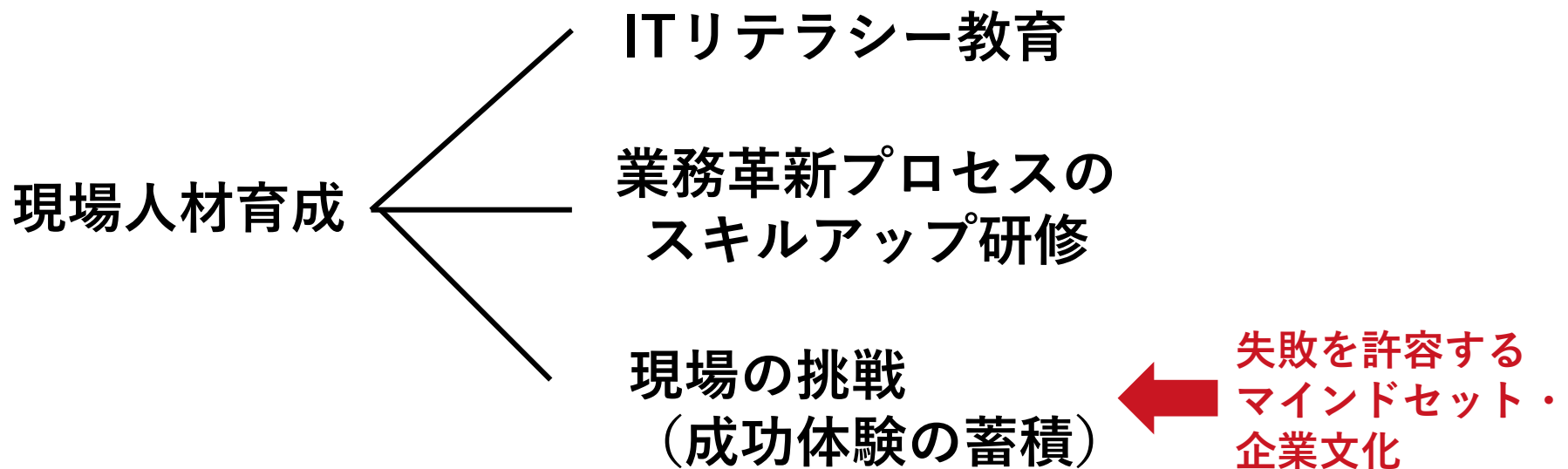


- ・ボトムアップ型DX推進の課題：

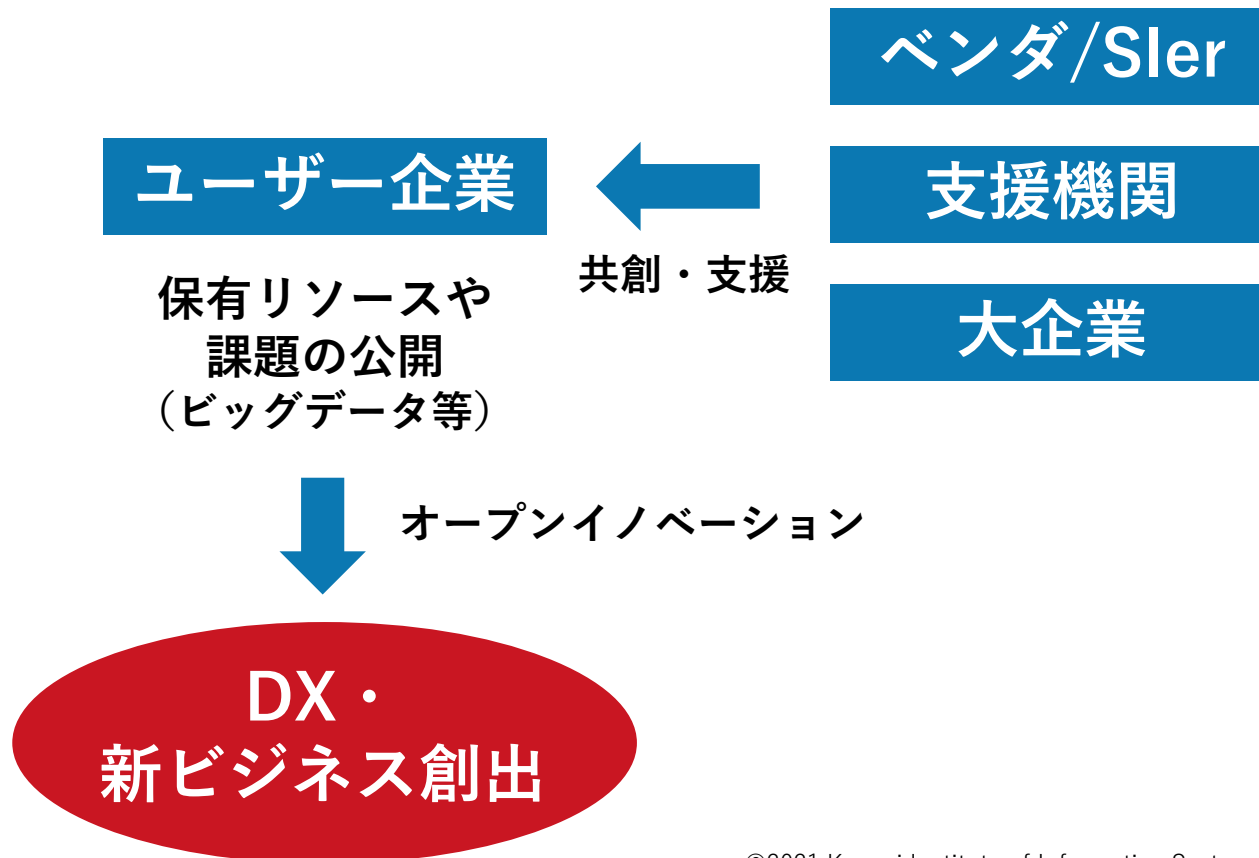
「現場がDXを知らない」こと

→現場の人材に対する教育機会の創設

(ITリテラシー教育、スキルアップ研修、現場の挑戦)

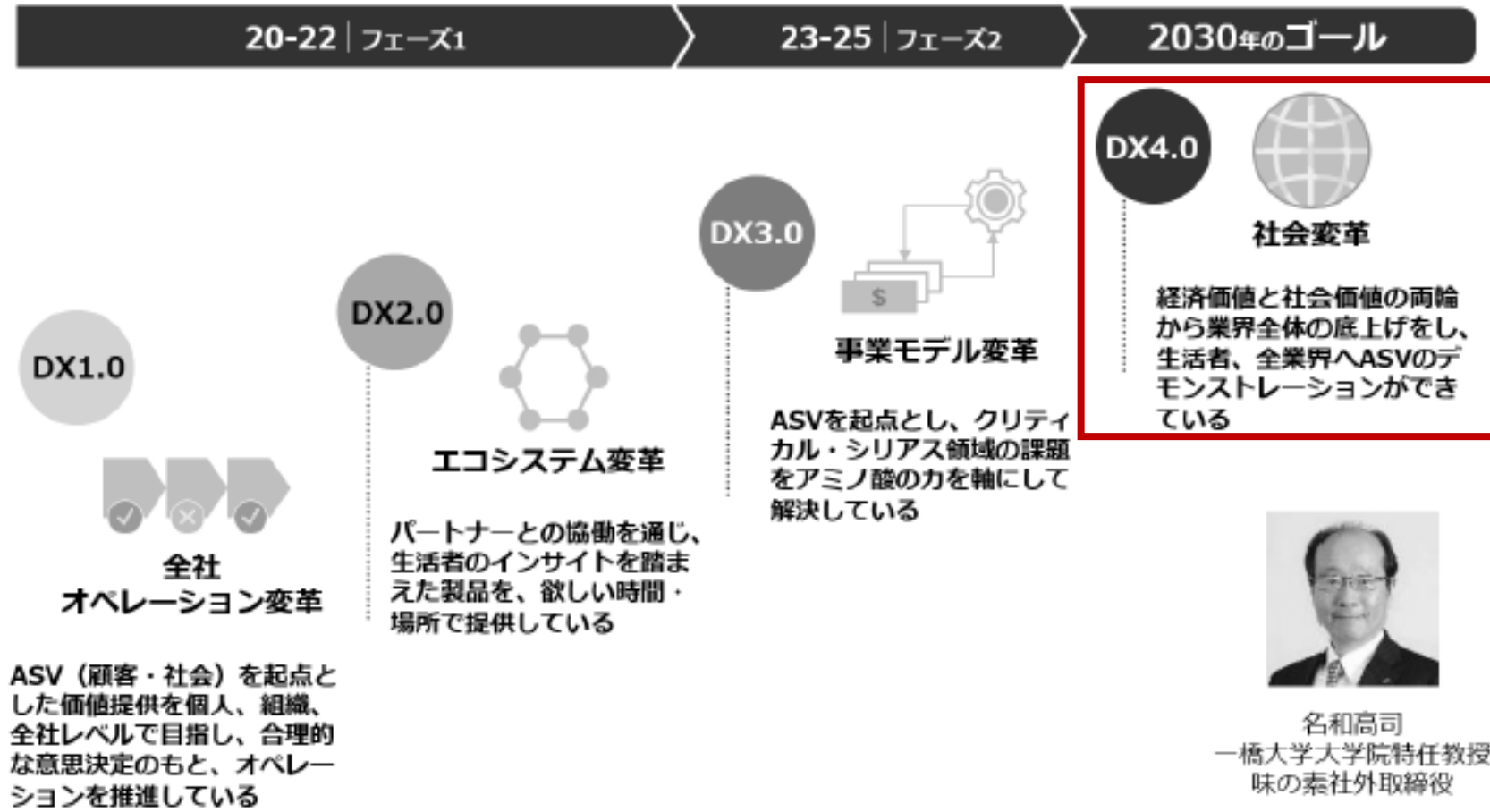


- ・ 中堅/中小企業：DX推進ハードルが高い
（人材不足・ノウハウ欠如・リソース調達の難しさ）
→ **オープンイノベーション**を通じたDX推進



3. 調査結果の考察 付加価値創出・社会課題解決を目指したDX推進

事例：味の素グループにおけるDX推進の4ステージ



出典：味の素グループ（2021）「味の素グループのデジタル変革（DX）－食と健康の課題解決企業へ－」

付加価値創出・社会課題解決を目指したDX推進

- ・ 「オペレーション改善」にとどまらず、「イノベーション創出」、さらに「社会課題の解決（CSV）」を視野に入れたDX推進
- ・ **×** 自社の現状を踏まえず拙速に推進
→ **○** 自社のステージに応じた段階的な推進
(DX推進段階等による自社の現状把握)

オペレーションの
改善

イノベーションの
推進

社会課題の解決
(CSV)



DXの
実現

段階的な
推進

DX 推進サポート機能の必要性と支援機関の担うべき役割

DX推進における課題

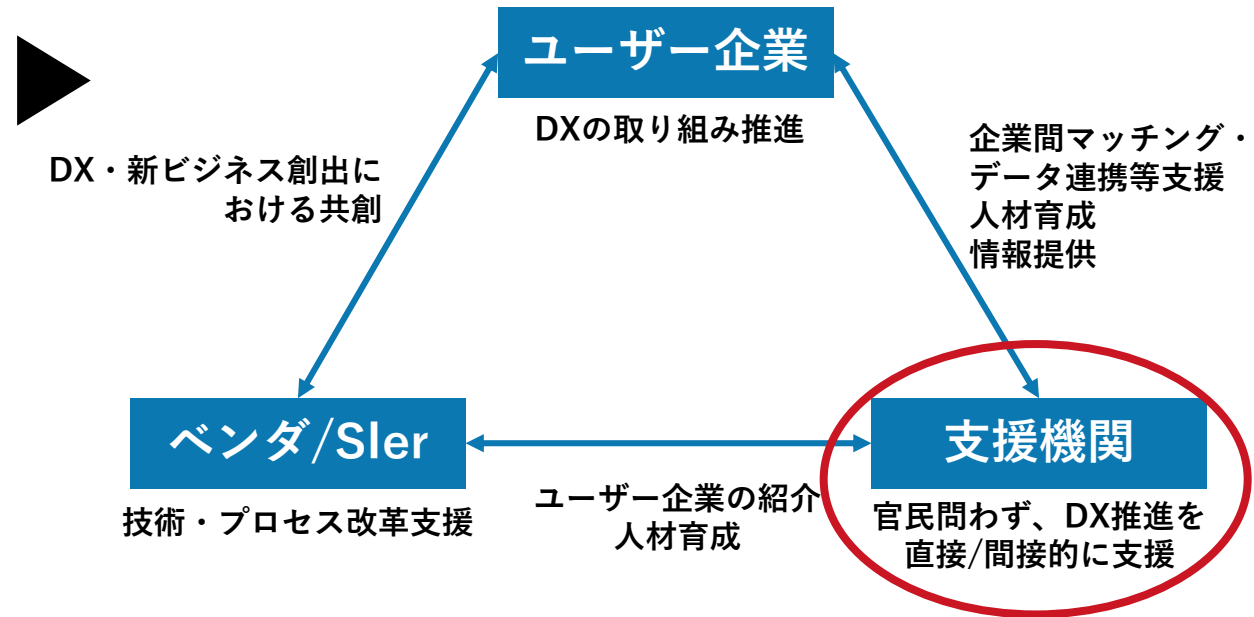
技術革新、ビジネス環境の急速な変化
(個社対応の難しさ)

パートナー選定の難しさ

DX推進リソース・知見/ノウハウ不足

何から手を付ければよいかわからない

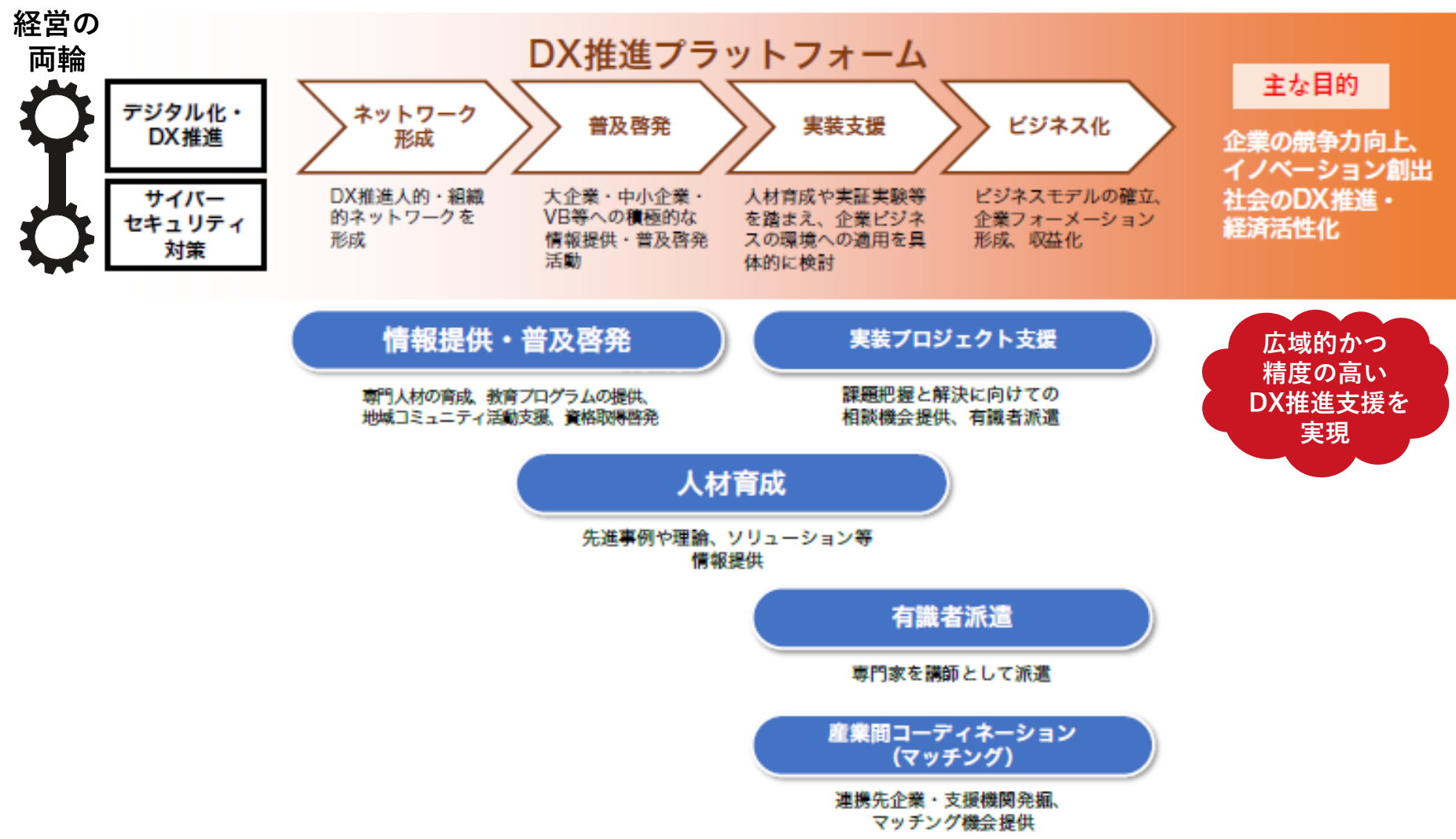
ユーザー企業、ベンダ、支援機関が参画し、企業間マッチング等を行う枠組みの必要性



■DXを推進するために支援機関が担うべき役割

支援内容	担うべき役割
DXの推進方法が分からない (DX未実施企業)	DX推進方法に関する情報提供、相談機能提供 DXに精通した有識者派遣等
オープンイノベーションを 通したDX推進	企業間のマッチング、データ連携等
ボトムアップ型でのDX推進 (現場人材の育成)	ITリテラシー教育や業務革新プロセスのスキルアップ 研修プログラムの提供/実施支援

4. 提言 「DX推進プラットフォーム」形成の必要性



4. 提言 「DX推進プラットフォーム」の機能

支援段階	機能	具体的な取り組み
ネットワーク 形成・普及啓発	①情報提供・普及啓発	先進企業事例や理論、ソリューション等に関する情報提供機会の提供、地域コミュニティ活動の支援、関連資格の取得啓発
普及啓発・ 実装支援	②人材育成	専門人材の育成・確保、教育プログラムの提供・実施支援、ベンダ企業の人材育成
実装支援・ ビジネス化	③実装プロジェクト支援	課題の把握と解決に向けてのアドバイス・相談機会の提供、コンサルティング
	④有識者派遣	DXやセキュリティ分野の専門家を業界団体やセキュリティコミュニティの開催するセミナー等に派遣
	⑤産業間コーディネーション (マッチング)	連携先企業・支援機関の発掘やマッチング機会、IoTやデータ連携、データ共有に関する連携支援機能の提供

【関西 DX 推進プラットフォーム事業キックオフセミナー】
e-Kansaiレポートから見るDX推進の現状及び提言

「e-Kansaiレポート」報告書
ダウンロードはこちらから

お問い合わせ：

一般財団法人関西情報センター
イノベーション創出支援グループ

TEL : 06-6809-2142

mail : rstaff@kiis.or.jp

Webページ : <http://www.kiis.or.jp/>



Kiis

一般 関西情報センター
財団法人

<http://www.kiis.or.jp/>